



◆ 参加作家「絵とエッセイ」

阿部海太
荒井良二
飯野和好
石黒亜矢子
植田真
及川賢治
大畑いくの
加藤休ミ
軽部武宏
きくちちき
坂本千明
ささめやゆき
スズキコージ
高山なおみ
tupera tupera 亀山達矢
寺門孝之
中川学
中野真典
nakaban
長谷川義史
ハダタカヒト
原マスマ
樋口佳絵
穂村弘
牧野千穂
町田尚子
ミロコマチコ
村上慧
本橋成一
本秀康
ヨシタケシンスケ
吉田尚令

「あの日から」を生きる、
すべての人へ。

あの日からの
或る日の
絵とことば

筒井大介 編

2019年
3月刊行

創元社

3.11 と 子どもの本の作家たち

現代を代表する絵本作家たちが描く、震災をめぐる或る日の記憶。

B5 判変型 (164×188mm) / 上製 / 144 頁 定価 (本体1,700円+税)

震災をめぐる、 記憶と物語。



『翻訳できない世界のことば』から始まるイラストブックシリーズ、最新刊。
現代を代表する絵本作家たちによる、絵とエッセイを収録。
初のエッセイ書き下ろしとなる作家も多数。

編者まえがきより (抄録)

僕は絵本編集者だ。2002年からこの仕事をしているのだが、2011年3月11日以降、出る絵本の傾向が変わったとを感じるようになった。生命力にあふれたもの、逆に死をテーマにしたものも増え、以前なら「怖い」といって避けられたようなインパクトのある絵や物語を描く絵本作家も多くなった。僕が日々感じる「楽しい」も「嬉しい」も「悲しい」も「寂しい」も、その根っこはあの日を境に大きく変わった。読者の中にも見えない、でも消えない感覚がうずき始めたのかもしれない。そして、絵本作家はそのことをより切実に抱え込んで、絵と言葉を紡ぎ始めたように思えるのだ。

§

この本は32人の絵本作家による、ごくごく個人的なエピソードの集積で出来ている。それは一見あなたには関係ない、もしかしたら些細に思える、あの日にまつわる、ある日の物語。しかし、読み進めるうちに、いつしか自分を重ねる瞬間がやってくるかも知れない。自分の物語を誰かに聞いて欲しい。近しい誰かの物語を知りたい。他の誰かが抱えているものを、気持ちや、共有することはきっと出来ない。それでも、みんなあの日から同じ地続きの日々を生きている。何かを乗り越えたりせず、ただただ抱えて生きている。

§

あの日にまつわる、個人的な、他人にとっては些細な物語。そんな物語を沢山聞いてみたい。どこからでも、この本を開けば、誰かのそんな瞬間の物語に出会う事ができる。そしてそれを、心強く思う日があるかも知れない。あの日からの絵と言葉の物語は、僕やあなたと同じ日々を歩んでいるはずだ。

【編者】筒井大介 (つづい・だいすけ)

1978年大阪府生まれ。出版社を経てフリー編集者に。担当した絵本に『うちゅうたまご』(荒井良二)『むかしむかし』(谷川俊太郎・詩/片山健・絵)『そよよとかぜがふいている』(長新太)『ボクのかしいパンツくん』(乙一・原作/長崎訓子・絵)『ネコツメのよる』(町田尚子)『えとえとがっせん』(石黒亜矢子)『やましたくんはしゃべらない』(山下賢二・作/中田いくみ・絵)他多数。『フラッキンダー』(スズキコージ)『オオカミがとぶひ』(ミロコマチコ)がそれぞれ第14回、第18回日本絵本賞大賞を受賞。『オレときいろ』(ミロコマチコ)で2015年度のプラティスラヴァ世界絵本原画展「金のりんご賞」を受賞。水曜えほん塾、nowaki絵本ワークショップ主宰。京都造形芸術大学非常勤講師。日本ユニ・エージェンシー「プロを目指す人のための、実践・絵本ワークショップ」講師。

創元社

<http://www.sogensha.co.jp/> 本社 ◆ 〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL 06-6231-9010 FAX 06-6233-3111
東京支店 ◆ 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-2 田辺ビル TEL03-6811-0662

キリトリ線

創元社申込書 この注文書にて最寄りの書店へお申し込みください。書店ご不便の場合は直送もいたします(送料360円。3,000円以上送料無料)

あの日からの或る日の絵とことば 3.11と子どもの本の作家たち
筒井大介・編

冊 申し込みます

取り扱い店名

ISBN978-4-422-70120-2 C0071

定価(本体1,700円+税)

ご住所

〒

お名前

フリガナ

TEL

() -